

陸中海岸国立公園の公園計画の変更に関する 意見募集（パブリックコメント）について

陸中海岸国立公園の公園計画の変更にあたり、これに関する意見を募集します。

公園の概要

1 区域

本公園は、北上山地の東端に位置する岩手県下閉伊郡普代村から岩手県釜石市までの太平洋に面した海岸線を中心に指定され、その後、岩手県釜石市から宮城県気仙沼市までの公園南部の拡張、岩手県久慈市から岩手県下閉伊郡普代村までの公園北部の拡張を経て、現在岩手県久慈市から宮城県気仙沼市まで、南北約180kmに及び範囲が公園区域に指定されている。

2 景観の特徴

本公園のほぼ中央に位置する宮古湾付近を境に、北部は大規模な隆起性の段丘海岸で、比較的出入りの少ない単純な海岸線をもち、南部は沈降性のリアス式海岸で、外洋に長く突き出た半島や岬と深い湾入がくり返し展開されている。

代表的な風景地としては、北山崎、ローソク岩、浄土ヶ浜、穴通磯、碁石海岸、巨釜半造等が挙げられ、いずれも海洋による激しい浸食により、雄大な海岸景観を形成している。

3 動植物

海岸植生はアカマツを主体としており、下床部にはヤマツツジなどの落葉広葉樹が見られる。崖縁部にはラセイトサウーハマギク群落、コハマギク群落が優先し、木本ではハマハイビャクシンが広く分布しており、砂浜部ではハマナス、ハマニンニク、コウボウムギ等を見ることができる。落葉広葉樹林では、イヌシデアカシデ自然林やクリーミズナラ群落、コナラ群落が内陸部を中心に発達している。

海鳥類は、ウミネコ、クロコシジロウミツバメ、オオミズナギドリ等が特徴的であり、特にクロコシジミウミツバメは、日本では本公園でしか繁殖していない。また、ウミウ、ハヤブサ、オオワシ、オジロワシ等の飛来も見ることができる。哺乳類では、ニホンカモシカ、ニホンリス、キツネ等の生息が見られる。

4 利用動態

主な利用形態は、陸上からだけでなく、浄土ヶ浜から普代の間や唐桑半島、気仙沼湾などでは遊覧船が就航しており、海上からも楽しむことができる海岸景観の鑑賞や自然探勝のほか、魚釣り、サケやウニに代表される魚介類の味覚探訪、夏季の高田松原をはじめとする砂浜での海水浴等を中心に、平成9年には約876万人の利用者が訪れている。

変更の理由

陸中海岸国立公園は、我が国を代表する海岸景観を有する国立公園として、昭和30年5月2日に指定された。その後、昭和39年6月1日には公園北部の拡張、昭和46年1月22日には、公園南部の拡張及び海中公園地区が指定された。また、平成6年11月7日には

公園区域及び公園計画の全般的な見直し（再検討）を行い、さらに平成12年3月31日には公園計画の変更（第1回点検）を行い、現在に至っている。

今回は、本公園を取り巻く諸情勢の変化を踏まえつつ第2回点検として、公園計画の変更を行うものである。

変更案の概要

1 公園計画の変更

(1) 利用施設計画の変更

ア 集団施設地区

(ア) 拡張

気仙沼大島集団施設地区

集団施設地区に隣接し、一体的に利用されている地域を区域に編入し計画的に整備する。

宮城県気仙沼市字大初平及び字外畑の各一部（19.6ha）

(イ) 削除（解除）

船越集団施設地区

利用の実態や施設の整備状況から見て、集団施設地区として整備を進める必要性が乏しいため、区域を削除（解除）する。なお、既存施設については、単独施設に振り替える。

岩手県下閉伊郡山田町船越の一部（72.5ha）

(ウ) 名称変更

集団施設地区の位置を正確に示すため名称を変更する。

宮古国民休暇村集団施設地区 宮古姉ヶ崎集団施設地区

イ 単独施設の追加

船越集団施設地区の削除（解除）に伴い、船越湾周辺の海岸景観を鑑賞するための施設を園地計画に振り替える。

園地 岩手県下閉伊郡山田町（船越）

ウ 道路（車道）の追加

船越集団施設地区の削除（解除）に伴い、当該地区を利用する道路を車道計画に位置づける。

船越線道路（車道） 起点：岩手県下閉伊郡山田町（田ノ浜・国立公園境界）

終点：岩手県下閉伊郡山田町（田ノ浜・国立公園境界）

エ 道路（歩道）の変更

船越集団施設地区の削除（解除）に伴い、船越半島線歩道の起点を船越集団施設地区から荒神社に変更する。

船越半島線道路（歩道）

起点：岩手県下閉伊郡山田町（集団施設地区）

終点：岩手県下閉伊郡山田町（荒神社）